

●ポイント

- **前提** : 2020年以降、生成AIの急速な進化と普及により、第4次AIブームが到来しています。AIは専門家だけではなく、誰もが扱える身近な存在となりました。これは子供たちも例外ではありません。先生がAIに関する知識を習得していただくことで、AI社会を牽引する次世代の子供達へプラスの影響を与えることができます。また、報告や事務作業、授業の準備など、日々の業務においてもAIを活用した効率化が期待できます。
- 「AIを活用する人材の育成」を目的としたライブ形式のオンライン講座です。
- 「AI 基礎知識・最新技術紹介」、「生成AI 活用・実践」、「AIプロジェクト推進」などAIの基礎知識の習得から実用的な企画立案を行う 計7回の講義(ワーク含む)です。
- AIに対しての漠然としたイメージを明確にしていくために、「学ぶべきことを学ぶべき順番＝AIの基礎～活用～実践」で構成された講義を通じ、AIの活用についての解像度を上げていきます。

AI活用アカデミア
第1回
AIを「使いこなす」人材になろう！

03 AIプロジェクトの進め方

タスクが大きければサブタスクに分割する
ポイント：タスクの作業時間が想定できるか？
「打合せを行う」ではタスクが大きすぎる（作業時間が想定できない）

サブタスクに分割：

- 議題について会話できる程度まで理解する
- 打合せの議題一覧を作成する
- 打合せ日時/参加者を調整する
- 打合せを実施する
- 議事録の作成
- 課題一覧、提案書への反映
- 関係者の承認

作業時間が見積もれる
作業内容がイメージできている
AIでの改善施策が検討できる
必要なデータが収集できる
プロンプトが作成できる

AI活用企画

グループ名：ハンチライン連合 メンバー：甲谷、高橋、徳久、工藤、石川

AIの名称：Slide Genius

概要(160文字以内)
キャピタリストが投資委員会に提出するプレゼン資料とそれに対するフィードバックを学習させ、プレゼン時に予想される論点や問題点を事前に予測し、コメントを残すAI

WHO: ターゲット(誰のため?)
・ 投資事業本部のキャピタリスト(7～8人規模)

WHICH: どのタイプのAIを使うのか?
講義系AI 千鳥系AI 会話系AI 実行系AI
×
代行型 拡張型

WHY: 解決すべき課題
・ FDBKのMITG時間の削減
・ 上司とのワーケーションの削減

具体的には(データ不足や論理の飛躍がないか?等)

WHAT: このAIができること
・ プレゼン資料において不足している点を事前にチェックし、資料の質を向上させる

HOW: どうやって解決するのか?
・ GPTを利活用して、過去のプレゼン資料とそれに対するコメントやフィードバックから学習し、新たなプレゼン資料作成時に潜在的な問題点や重要な論点を指摘。

ニーズの明確化
実装計画やタイムラインを明示しましょう

●概要

実績豊富なコンテンツ

LINEヤフー社の企業内大学で社員向けに展開している、実績あるコンテンツをベースに作成。これまでに約1,500名以上が受講したプログラムです。

理論から実践までの体系的な構成

単なる生成AIの使い方講座ではなく、AIの基礎、活用、実践のステップで構成。理論をしっかり理解した上で、実際の活用に取り組むことができます。

アウトプット重視の学習スタイル

各回の講義では、個人ワークとグループワークを組み合わせたアウトプット重視の進行を採用。学んだ内容を即座に実践し、より深く定着させることができます。

【各講義の概要】

開催	テーマ	内容
第1回	AIの基礎知識、求められる人材	AIの歴史からAIの現在の状況をふまえて「AIとは何か」、また求められる人材について解説。
第2回	AIを「使いこなす」活用事例の紹介	AIのタイプ別活用事例とAIタイプ別の使えるサービスについて解説。
第3回	使っていますか？生成系AIによる業務改革	言語モデルとプロンプトの基礎からビジネスにおける活用アイデアまで解説。
第4回	データが重要！AIを活用したデータ分析の方法	AIを活用したデータ分析の流れや方法を解説。
第5回	AIを活用した課題解決の方法	AIを活用した「文字起こし」「図の作成」など業務効率化に繋がるノウハウを解説。
第6回	実践！AIプロジェクトの進め方とポイント	AIプロジェクトの進め方の解説をし、最終回に向けたプレゼンの準備を行う
第7回	AIプロジェクトの企画発表会	AI企画の最終プレゼンテーションを実施し、講師より評価を行う

●モジュール

モジュールNo.	項目	概要	小計&合計(税込)
00	AI活用アカデミア	・1回2時間の講義を7回実施(合計14時間) ※ライブ形式のオンライン講座 ※受講料はお一人あたりの価格	220,000円
			合計220,000円

できること

- AIの基礎から実践までを学習できます
- 各講座において実習(アウトプット)の時間を設けることで、定着を促し、習熟度が向上します
- 講座期間中は、チャットツールを通じて講師へ質問ができます(回数無制限)

留意点

- 使用ツールは次の通りです
Slack(チャットツール):全体連絡や課題提出の際などに利用
box(ファイル共有ツール):講義資料、講義動画の共有に利用
Zoom(Web会議ツール):講義の際に利用
Googleフォーム(アンケートツール):受講期間中のアンケートに利用
ChatGPT(生成AI系ツール):講義中に利用(無料版で可)
- 複数の学校様での合同開催となる場合があります

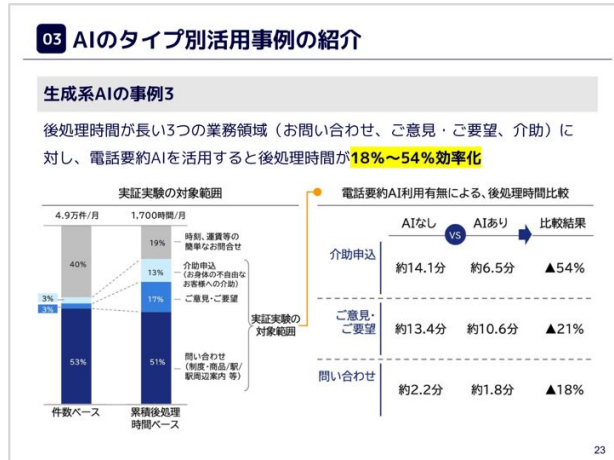
詳細は下記URLよりお問い合わせください。
事務局より連絡させていただきます。
<https://techacademy.jp/ly/contact-biz>

● 講座内容のイメージ

「AIを使いこなす人材」を学習ゴールとして各レッスンを構成

本日の内容

開始	終了	分	
18:00	18:10	10	1. 前回のおさらい、2. 課題の結果共有
18:10	19:05	55	講義 3. AIのタイプ別活用事例の紹介 4. AIのタイプ別使えるサービスの紹介 兼「AI最新トピック」コーナー
19:05	19:10	05	<休憩>
19:10	19:20	10	4. AIのタイプ別使えるサービスの紹介 兼「AI最新トピック」コーナー
19:20	19:40	20	5. グループワーク
19:40	19:50	10	グループワークへのフィードバック、質疑応答
19:50	20:00	10	次回までの課題の説明→終了



カリキュラムは毎回最新情報にアップデートし、具体的な事例を取り入れている

02 「前回の課題」の結果共有

前回の課題

「すごい！」と思ったAIの事例をSlackの全体チャンネルに投稿してください

記載する内容

- 事例の概要：概要を文章で記載
- AIのタイプ：「生成系、予測系、識別系、実行系」から選択
- 学習の種類：「教師あり、教師なし、強化学習、事前学習、ファインチューニング」などから選択
- 使用データ：学習、または課題解決（指示）に使用したデータ
- すごい！点：自分が感じたすごい点を文章で記載
- URL：事例のURL。画面キャプチャーでもOK

05 グループワーク

- ・ グループワークのお時間は**20分**です。
- ・ Zoomのブレイクアウトルームに移動して行います。
- ・ グループワークで行って頂く内容
 - ・ 気になった活用事例やAIのサービスについて、「自分だったらどう使うか」話し合います。
- ・ グループワークの最後に、会話した内容を簡単にまとめてZoomチャットに投稿してください。

06 次回までの課題の説明

1回目の課題「あなたの仕事で、AIをどのように活用したいのか」を具体化して行きましょう。別の内容に変更してもOKです。

▷提出期日：2月16日(金)午前中

▷投稿先：Slackの「lyta-ai活用アカデミア-practice」チャンネル

▷提出内容

別紙「課題記入用テンプレート」に記入してください

→記入頂いた内容は、次回以降の「課題解決」や「AIプロジェクト」を考えるベースとなります。

1年以内ぐらいに導入する前提で、具体的に書きましょう。

グループワークの実施や各回ごとに「課題」が設計されアウトプットを重視した進行

● 講座内容のイメージ

AIで解決したい課題をもとにAIプロジェクトを企画

本日の内容

開始	終了	分	
18:00	18:05	5	オープニング、前のおさらい
18:05	18:45	40	講義：画像生成AI入門②
18:45	19:50	5	休憩
18:50	19:30	40	グループの発表（1グループ6分+質疑応答4分）
19:30	19:35	5	投票
19:35	19:45	10	投票結果の発表と太田さんからの総評
19:45	19:55	10	グループワーク
19:55	20:00	5	まとめ～終了

03 AIプロジェクトの進め方

サブタスクごとに改善施策を検討

データ化を意識する。タスクごとに適した手法を選定（AIありきではない）

サブタスク	ツール	作業概要
議題を理解	ChatGPT	議題の概要を把握。検索や社内資料で真偽をチェック。不明点は有識者に確認（時間をかける） データ化：議題概要、業務フローなど
議題一覧を作成	ChatGPT	議題概要と課題一覧をもとに、検討事項を生成系AIで洗い出して一覧化
日時/参加者を調整	日程調整	TeamsやTimeRex、easyなどのツールを使用
打合せを実施	オンライン化	オンラインで実施。レジメを事前配布し、検討事項のみ議論
議事録の作成	文字起こし	Teamsの文字起こし機能でデータ化→整理
課題一覧への反映	ChatGPT	議事録から課題を抽出し、既存の課題一覧と比較。追加または更新の文案を作成
提案書への反映	ChatGPT	議事録から決定事項を抽出し、提案書を更新
関係者の承認	Teams	Teamsの承認フロー

03 AIプロジェクトの進め方

生成系AIの例：業務効率化時間の測定、成果物の品質確認

データ化を行うことで、次回以降のタスク実行はさらに効率化される

赤字の部分は「品質を向上」させている

ChatGPTで効率化 → 重要なタスクに時間をかける

サブタスク	ツール	作業時間 (Before)	作業時間 (After)	削減効果
議題を理解	ChatGPT	16h	16.0h	0.0h
議題一覧を作成	ChatGPT	8h	8.0h	0.0h
日時/参加者を調整	日程調整	4h	0.5h	-3.5h
打合せを実施	オンライン化	6h	2.0h	-4.0h
議事録の作成	文字起こし	8h	0.5h	-7.5h
課題一覧への反映	ChatGPT	4h	1.0h	-3.0h
提案書への反映	ChatGPT	4h	1.0h	-3.0h
関係者の承認	Teams	4h	0.5h	-3.5h
合計		54h (約7日)	29.5h (約3.5日)	-24.5h

AIプロジェクトの進め方を理解し、チームごとに企画・成果物を発表

AI活用企画 グループ名：カレー メンバー：細田、麻生、清水石、小林、三品

AIの名称：TalentGrid AI

概要 (180文字以内)
フリーランスデザイナー向け案件紹介エージェント事業において、顧客へ提案をする人材の候補選定を補助するAI。入力した案件の情報に対し、在籍人材と過去案件の対応結果を照らし合わせることでマッチ度合いの高い人材をリストアップする。人材を属性でグループ分けすることで、未受注の人材も選出できるようになる。

WHO: ターゲット(誰のため?)
・ 〇〇のセールス担当
・ 顧客、デザイナー

WHICH: どのタイプのAIを使うのか?

識別系AI	予測系AI	会話系AI	実行系AI
-------	-------	-------	-------

代替型	拡張型
-----	-----

WHY: 解決すべき課題
・ 人材選定のノウハウが個人化しており、セールス個人の知識に依存している
・ データ量が多いため、人力での検索に時間がかかる

WHAT: このAIができること
・ 全ての人材情報と案件情報を参照するので、画一的な選定ができる
・ 情報の参照と人材選定の時間を短縮することができる

HOW: どうやって解決するのか?
1. データを用意
2. データを属性別にグループ分け
3. 相談案件に最適なグループ選出し、その中で人材の順位付けを実施
4. 顧客提出用の選定理由を作成

AI活用企画 グループ名：パンチライン連合 メンバー：甲谷、高橋、徳久、工藤、石川

AIの名称：Slide Genius

概要 (180文字以内)
キャピタリストが投資委員会に提出するプレゼン資料とそれに対するフィードバックを学習させ、プレゼン時に予想される論点や問題点を事前に予測し、コメントを残すAI

WHO: ターゲット(誰のため?)
・ 投資事業本部のキャピタリスト(7~8人規模)

WHICH: どのタイプのAIを使うのか?

識別系AI	予測系AI	会話系AI	実行系AI
-------	-------	-------	-------

代替型	拡張型
-----	-----

WHY: 解決すべき課題
・ 100%Q&Aの削減
・ 上司とのラリー削減
・ ニーズの明確化
・ 具体的に(データ不足や論理の飛躍がないか?)等

WHAT: このAIができること
・ プレゼン資料において不足している点を事前にチェックし、資料の質を向上させる

HOW: どうやって解決するのか?
・ GPT4を利用して、過去のプレゼン資料とそれに対するコメントやフィードバックから学習し、新たなプレゼン資料作成時に潜在的な問題点や重要な論点を指摘。
・ 実装計画やタイムラインを明示しましょう

AI活用企画 グループ名：チームAYUKA メンバー：山口/松野/関/村上

AIの名称：学生のお悩み解決、FAQツール!

概要 (180文字以内)
・ 学生が選考において、気になる点をいつでも、どこでも解消できるツール
・ 当社採用における基本的な内容や、人事や社員に関きつたいことをツールで解消し、選考体験の改善につなげ、志望度向上を図る

WHO: ターゲット(誰のため?)
当社新卒採用を受ける学生

WHICH: どのタイプのAIを使うのか?

識別系AI	予測系AI	会話系AI	実行系AI
-------	-------	-------	-------

代替型	拡張型
-----	-----

WHY: 解決すべき課題
・ 学生
・ 選考中の学生の質問ハードルが高い
・ 採用人事
・ 個別対応にかかる工数
・ コミュニケーション不足による選考辞退

WHAT: このAIができること
・ 基本的な質問(選考フロー/初任給は?等)、会社/業務理解に向けた質問(キャリアパスは?等)をチャット形式で回答
・ 疑問点/不明点をすぐに解消でき、選考体験がよくなることで選考参加率が改善

HOW: どうやって解決するのか?
・ 生成AI、教師あり学習にて、当社にまつわる情報(会社説明資料、社員インタビュー記事、過去の質疑応答ログ)を事前学習させる

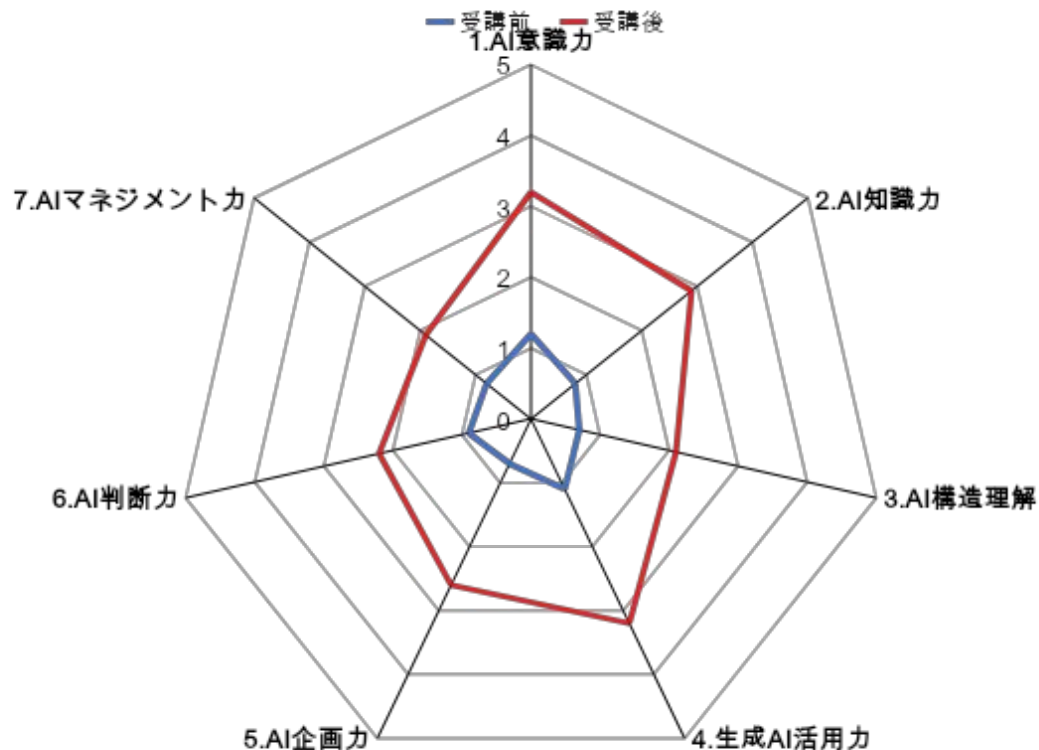
グループごとに発表し「課題解決度」「新規性」「実現性」の観点で、最優秀賞を決定

● 受講前後の姿

全受講者に受講前後のAIスキルチェックを実施し、受講前後の変化を計測

AI意識力、AI知識力、生成AI活用力については特に上がり幅が大きい傾向に

過去実績：受講前後のスキルチェックの数値平均(5段階評価)



スキル(平均)	受講前	受講後	差分
1.AI意識力	1.2	3.2	2.0
2.AI知識力	0.8	2.9	2.1
3.AI構造理解	0.7	2.1	1.4
4.生成AI活用力	1.1	3.2	2.1
5.AI企画力	0.7	2.6	1.9
6.AI判断力	0.9	2.2	1.3
7.AIマネジメント力	0.8	1.9	1.1

ご興味がありましたら、以下からお問い合わせください。

- 企業名 : ソフトバンク株式会社(提供元:LINEヤフー株式会社)
- ホームページ: <https://ly-academy.yahoo.co.jp/tech/index.html>
- お問い合わせフォーム: <https://techacademy.jp/ly/contact-biz>